

日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

1. 基本情報	
(1) 案件名	クラチェ州における小児外科診療体制強化事業
(2) 事業地	カンボジア国クラチェ州
(3) 贈与契約締結日 及び事業期間	・ 贈与契約締結日：2020年12月14日 ・ 事業期間：2020年12月21日～2021年12月20日
(4) 供与限度額 及び実績（返還額）	・ 供与限度額：694,539米ドル ・ 総支出：682,890.76米ドル（返還額：11,648.24米ドル）
(5) 団体名・連絡先、事 業担当者名	(ア) 団体名：公益財団法人 国際開発救援財団 【法人番号：1010005015999】 (イ) 電話：03-5282-5211 (ウ) F A X：03-3294-2525 (エ) E-mail：koyama@fidr.or.jp (オ) 事業担当者名：小山 直行
(6) 事業変更の有無	事業変更承認の有無： (ア) 申請日：2021年12月17日 承認日：2022年1月4日 内容：活動回数の変更 事業変更報告の有無： (ア) 報告日：2021年8月31日 内容：設計図面の変更 (イ) 報告日：2021年12月17日 内容：本部スタッフの渡航中止・駐在員の再渡航費への流用

2. 事業の概要と成果	
<p>(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)</p>	<p>今期事業達成目標：拠点病院の外科病棟建設により診療環境が改善し、同病院を軸とする医療人材の育成がなされる。</p> <p>3か年事業の第2年次である今年度は、クラチェ州保健局ならびにクラチェ州病院の関係者らとの共同をより強め、州病院の外科病棟の移転建設を中心に、①クラチェ州病院の外科診療の質を向上する活動、②クラチェ州における患者搬送体制を強化する活動、③住民への知識普及を通じて医療行動改善を図る活動という3つの軸から活動を展開した。</p> <p>1年次から継続している研修や機材整備に加えて、今期に実施した外科棟の移転建設により、クラチェ州を拠点とするカンボジア北東部における小児外科の診療環境は一段と改善した。カウンターパートであるクラチェ州保健局と州病院と共に研修の実施や建設工事の管理を行う過程で、診療環境改善に対する彼らのオーナーシップがより一層育まれた。同じく1年次から継続している院内研修、患者満足度調査、退院後患者のフォローアップ等の活動を通じ、診療業務のあり方と成果を振り返り、自らのスキル向上や医療サービスの改善に活かすことが習慣となってきた。これにより人材育成は着実に進み、今期の事業目標は概ね達成できたと考える。</p> <p>なお、クラチェ州で年々増加する交通事故による子どもの外傷患者への診療能力を強化するために、当財団の自己資金にて外科医の外部研修派遣や手術器具の配備を行った。整形外科患者の治療環境が整いN連による本事業との相乗効果が発揮されることが期待される。</p> <p>カンボジア国内における新型コロナウイルスの感染拡大により、2021年3月～5月の3か月間は活動を中止し、8月には陽性が確認されたカウンターパートと当財団プロジェクトスタッフとの濃厚接触事案があったことから在宅勤務方式を採用する期間があった。移動規制や感染予防対策により、活動の実施回数や成果指標の達成に多少影響は生じたが、予期せぬ良い結果も得られた。例えば、以前は保健センター職員を対象とする小児外科研修は1か所ごとに実施していたが、今期はオンライン形式で各保健行政区の管轄する保健センター合同で実施したことで、別個の保健センターの職員がそれぞれに直面している課題について話し合う機会をつくることができ、地域医療のネットワーク強化が兆した。またウイルス感染拡大により感染予防に対する意識が高まり、患者に対して正しい予防方法について教育したいという声が病院職員から上がるようになるなど意識の変化も表れた。具体的な達成度は以下のとおりである。</p> <p>① <u>クラチェ州病院の外科診療の質を向上する活動</u> 新型コロナによる住民の外出自粛・受診控えの影響により、州病院外科の入院患者数や手術件数は目標値に達しなかったが、来院患者に対する診療を丁寧に行うなど病院サービスの質の向上に取り組んだ結果、患者保護者から好意的な声が前年度以上に聞かれる結果となった。患者満足度調査では、ネガティブな回答の割合は目標値とする2%以下を達成し、利用者の満足度が向上していることが確かめられた。今後は、事業の他の軸である②搬送体制の強化、③住民への知識普及活動の取り組みの効果と相俟って、州病院への搬送件数の増加、入院患者数の増加が実現するものと見込まれる。</p>

	<p>② <u>クラチェ州における患者搬送体制を強化する活動</u> 2年次は、新規2か所の保健センターに対して小児外科の基礎知識を学ぶ初期研修を実施し、1年次から対象となっている8か所に対してはフォローアップ研修を行った。研修を重ねてきたことで各保健センター職員が、専門性の高い小児外科疾患の症状についての知識や理解を深めた様子が窺えた。医師が配属されていないため保健センターでは診断は下せないが、センター職員は研修で学んだ小児外科の症状と似た症状を持つ患者を診た際には、速やかに州病院医師や当事業スタッフへ相談が上がるようになった。3年次は、対象の保健センターとの連携をより深め、小児外科への理解の向上が上位医療機関への搬送件数の増加につながるよう取り組んでいく。</p> <p>③ <u>住民への知識普及を通じて医療行動改善を図る活動</u> クラチェ州病院外科で行われる患者教育に参加した小児外科患者や付添家族は、目標値の418人を大きく超える921人に上った。これは、患者教育の必要性について、外科職員の意識が高まった結果である。ラジオによるコミュニティへの情報提供も目標値を上回る結果となったことから、小児外科疾患に対する治療について住民の関心は高く、今後の適切な医療行動への反映が期待できる。</p>
(2) 事業内容	<p>1. <u>クラチェ州病院の外科診療の質を向上する活動</u></p> <p>1-1. <u>クラチェ州病院職員の知識の向上</u></p> <p>1-1-1 NPH 職員の指導による研修 (実施1回/目標年2回) 11月15日に、国立小児病院の麻酔科医テップ・ソカー医師による「小児患者の全身麻酔」研修をオンラインで実施。クラチェ州病院の麻酔看護師9名が参加。</p> <p>1-1-2 院内研修 (実施19回/目標年12回、うち自己資金7回) 「火傷の治療方法」、「火傷患者に対する麻酔技術」、「麻酔器のエラー発生時の処置」、「創傷ケア」、「ミッションでの経験・学びの共有」、「上位型麻痺の理学療法治療」「ギプス固定患者のケア」、「小児外科患者を対象としたLMAによる医療・麻酔技術」、「牽引治療」、「小児外科患者の体液管理、投薬量の計算方法」、「生食塩水の投与速度」、「バッグバルブマスクによる換気方法」というテーマで州病院外科および手術部にて実施し、累計60名が参加。</p> <p>1-1-3 国内学会への参加 (外科学会および麻酔科学会が中止)</p> <p>1-1-4 州外研修 (派遣3人/目標年16人) AO Alliance 主催「骨折の治療方法：保存的治療と手術的治療」に外科医1名、「第20回カンボジア理学療法会議」に外科看護師2名を派遣。</p> <p>1-1-5 国内医療施設の視察研修 (医療施設の視察制限により見送り)</p> <p>1-2. <u>病院マネジメントの強化</u></p> <p>1-2-1 統計データ収集 (実施2か所/目標年8~12か所) 新規2か所の保健センターに対して小児外科患者の記録や搬送実績の統計収集を行った。地方への移動規制の影響で、他保健センターでのデータ収集は年度内に行うことはできなかった。次年度にまとめて収集することとする。</p> <p>1-2-2 退院後患者のフォローアップ (実施2回/年2回)</p>

小児外科患者の術後観察のため、9月に2名（1名は頭部外傷、もう1名は蛇咬傷で入院していた）の患者宅を訪問した。

1-2-3 患者満足度調査（実施年1回/目標年1回）

小児外科入院患者の保護者56名ヘインタビュー形式で実施。

1-2-5 プロジェクト運営委員会による指導・モニタリング（実施3回/目標年6回）

プロジェクト運営委員会による指導を1回、医療・サービス部会を1回、搬送体制部会を1回実施した。

1-3. 病院機能の強化、院内環境の改善

1-3-2 外科棟の移転建設

- ・新外科病棟が手術棟（術前術後室と手術室を含む）に隣接したことで、以前の患者の病棟間の移動にかかる課題が解決した。外科患者は、旧病棟では大部屋1室に收容させられていたが、1,497.96㎡の規模の新病棟では6室の部屋に分かれ、安全かつ快適な入院生活が可能となった。職員は、患者の病状や重症度によって病床管理をしやすくなり、業務効率も改善された。当財団の自己資金で供与した家具（ベッド周り備品、点滴台、診察スクリーンなど）の安全点検を外科職員と行い、患者が安全かつ快適に過ごせるための院内環境づくりに対する外科職員の意識にも変化が現れ始めた。また病棟の移転により、隣接する手術部や産科との連携がしやすい環境となり、診療科を越えて患者一人一人の治療に各科が協力しあう「チーム医療体制」に近づく変化が見え始めてきた。
- ・2020年12月21日に着工した建設工事は、検査や補修を含め約10カ月後の2021年10月21日に竣工し、2021年12月6日に完成式典を行った。カウンターパートや施工会社との定期的な進捗確認、工程の計画確認により、雨季の影響を大きく受けることなく、予定していた工期より早く仕上げることができた。また新型コロナウイルスが蔓延するなかでも、感染予防対策を徹底し、資機材の納期や購入先も調整しながら完成できた。以後の維持管理は病院側が責任を持つて行うことを譲渡書にて確認した。
- ・当財団、クラチェ州保健局、クラチェ州病院の代表から成る施工委員会は、施工会社 Omura Industries 社から毎月提出される月次報告書を精査の上、進捗会議および現場視察を定期的に開催し、工事の進捗確認および修正指示等を行った。工事のモニタリングは Omura 社下請けの CIC 社と毎週会議を持つとともに、事業地に常駐する当財団の事業担当者、現地職員ならびに州病院職員が作業現場に毎日足を運び、緊密にコミュニケーションを取りながら進めた。施工品質の管理のため、コンクリート強度試験、スランプテストなどには必ず立ち会い、さらに当財団本部および本邦の一級建築士とも情報共有を行い技術的な助言を受けるとともに、施工会社に必要な修正指示を行った。

1-4. NPH 外科職員のリーダーシップ強化

1-4-1 国内学会への参加（1-1-3 同様、開催中止）

2. クラチェ州における患者搬送体制を強化する活動

2-2. 保健センター職員等への知識普及

2-2-1 保健センターにおける小児外科研修（実施11回/目標年8~12回）
新規保健センター2か所含む計10か所の対象保健センターに対して、小児外科疾患の種類や症状、患者のスクリーニングツールを学ぶ研修を実

	<p>施。計 11 回実施し、76 名の参加者が参加。</p> <p>2-3. シンポジウム・啓発教材による知識普及 2-3-2 小児外科の啓発教材の作成・配布 知識普及のための啓発教材 38 セットを作成し保健センター職員等へ配布。</p> <p>3. 住民への知識普及を通じて医療行動改善を図る活動 3-1. 入院患者への情報提供 3-1-1 患者・家族への保健教育（実施 33 回/目標年 12 回、うち自己資金 21 回） 新型コロナウイルス感染予防のため「正しい手洗い方法、マスク着用方法、ソーシャルディスタンス」というテーマで 12 回実施し、計 330 名の患者および保護者が参加した。当財団の自己資金で実施した分を追加すると 921 名が参加。</p> <p>3-2. コミュニティへの情報提供 3-2-1 住民への普及・啓発（ラジオ放送 1 回/目標年 2~3 回） 「小児外科疾患の症状」というテーマで、州病院手術部長と当財団プロジェクトスタッフがコミュニティラジオに出演。</p>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p>成果 1. クラチェ州病院において、外科の診断と治療が適切に行われる</p> <p>1-1 小児外科入院患者数、手術件数〔確認方法：病院記録〕 ベースライン (2017) 入院患者数 436 人、手術件数 275 件 1 年次実績 各 466 人、274 件 2 年次目標 各 607 人、345 件 2 年次実績 各 374 人、234 件 【未達成】</p> <p>新型コロナウイルスの感染対策として外出制限が課せられたことに加え、住民の間にも外出や人との接触に対する不安が高いことから来院患者数、手術件数ともに目標値を下回った。2 年次において州病院は、診療体制の改善のため、1 名の若手外科医を新たに配置し、今後は麻酔技術者も増員する方針である。そのため、3 年次は、若手職員の技術向上、育成に取り組む。</p> <p>1-2 チーム医療の実践〔確認方法：モニタリング〕 1) 外科スタッフ間の申し送り実践度 ベースライン (2017) 0 回/週 1 年次実績 1 回/週 2 年次実績 0 回/週 詳細は下に記載 3 年次目標 6 回/週</p> <p>州病院の院内感染予防方針により、従来週 1 回開催していた申し送りは当面中止となった。この期間、病棟間の患者移動、患者の入退院、物品の管理方法などに関する必要情報はスタッフルームの掲示板や電話、テレグラム（メッセージアプリ）などに代えて共有した。3 年次は、申し送りの回数だけでなく、共有すべき内容も見直し、感染状況に左右されない管理を目指したい。</p> <p>2) 外科患者カルテ記載状況 ベースライン (2017) 記入漏れ多し 1 年次実績 記入はされているが、既述の正確さが求められる 2 年次実績 患者の入院記録として必要書類はそろって記入はされているが、記載内容は十分とはいえない</p>

3 年次目標 十分に情報を網羅

事業活動を対面にて行う機会が制約されたことで専門家によるチェック、助言や研修の機会を得ることができず、適切に記載されていると言える段階にはまだ達していない。医師と看護師から見た患者の状態に関する日々の観察記録や治療内容が十分に記載されるように取り組む必要がある。

1-3 患者満足度〔確認方法：質問票を用いたサンプリング調査〕

クラチェ州病院の外科診療に関する患者満足度におけるネガティブな回答の割合

ベースライン(2017)「手術前に治療の詳しい説明を受けたか」等の 24 の質問項目において、ネガティブな回答の割合が 29%

1 年次実績 4%

2 年次目標 2%

2 年次実績 1% **【達成】**

小児外科患者の保護者 56 名に対して満足度調査を行ったところ、ネガティブな回答の割合はわずか 1% という好結果であった。3 年次は、新設された外科病棟を基盤に衛生管理方法や職員同士の協働を改善することで、外科診療の質向上に努める。

1-4 乳児の手術件数〔確認方法：病院記録〕

より難易度の高い新生児・乳児(1 歳未満児)の手術件数

主な症例：鼠経ヘルニア、膿瘍、臍肉芽腫など

ベースライン(2017 年) 29 件

1 年次実績 38 件

2 年次目標 36 件

2 年次実績 33 件 **【未達成】**

手術件数が全体的に減ったため新生児・乳児の手術件数も減少した。全手術件数に対する割合としては、1 年次(38 件)に 13%、2 年次(33 件)で 14% となっており、受診する患者数は減少しても新生児・乳児の手術に関して州病院が果たす役割は減じておらず、外科職員もそれに対応できたと言える。

1-5 NPH 外科の教育的リーダーシップの度合い

〔確認方法：実績調査〕

NPH 外科・手術部で受け入れた研修生数(医学生インターン、他病院職員、外国研修生等)

ベースライン(2017) 70 人

1 年次実績 112 人

2 年次目標 84 人

2 年次実績 20 人 **【未達成】**

新型コロナウイルス感染予防のため、国外からの研修生のみならず国内からも研修受け入れが大幅に制限されたことが背景にある。

成果 2. クラチェ州において患者搬送体制が強化される

2-1 クラチェ州病院への搬送

〔確認方法：実績調査〕

他病院、保健センター、保健ポストからの小児外科患者受け入れ件数

ベースライン(2017 年) 41 件

1 年次実績 11 件

2 年次目標 57 件

2 年次実績 36 件 **【未達成】**

目標値に届かなかったが、1 年次と比べ 3.3 倍増加した。州病院での受け入れ総数に占める搬送件数の割合は、1 年次（466 件のうち 11 件）の 2.4% から 2 年次（374 件のうち 36 件）は 9.6% に上がっており、適正な診断、治療のために一次医療機関から州病院へ搬送する体制の構築が進んできている。

2-2 保健センター（HC）からの搬送

〔確認方法：実績調査〕

選定した保健センターから上位医療機関への小児外科患者送り出し件数（1 保健センター当たり）

ベースライン（2017 年） 3.3 件（13 件/4 か所）

1 年次実績 6.6 件（53 件/8 か所）

2 年次目標 4.6 件（46 件/10 か所）

2 年次実績 2.7 件（27 件/10 か所） **【未達成】**

2 年次は対象保健センターの搬送件数は目標値に届かなかった理由として、対象の保健センターのうち、1）サンボ—保健センターが 2021 年 1 月にサンボ—郡病院に格上げされたことで、統計上、保健センターの搬送件数に含まれなくなったこと（この格上げ措置は本事業の立案段階では予定されておらず予想不可能であった）、2）ドムライポン保健センターとチュローン郡病院を結ぶ道路が整備されたことで外科治療が必要な小児患者は直接チュローン郡病院を訪れるようになり、同保健センターからの搬送件数が減ったことが挙げられる。3 年次はさらに対象を 2 か所追加して小児外科疾患の知識を教えていくことで、地域から病院への搬送増加に努める。

2-3 保健センター職員の小児外科に関する知識

〔確認方法：実績調査〕

<指標> 選定した保健センターにおける小児外科研修に参加した職員の人数（1 保健センターあたり少なくとも職員 5 人が受講）

1 年次実績 69 人（8 か所）

2 年次目標 50 人（10 か所）

2 年次実績 76 人（10 か所） **【達成】**

感染予防対策のため移動規制があるなか、研修をオンライン形式に変更することで、全ての対象保健センターに対して実施することができた。保健センターにおけるワクチン接種業務に職員が動員され、研修を予定通り実施することが困難ではあったが、保健行政区の管轄別を実施することで効率性を図り、オンラインツール（ズーム）の使い方を指導しながらスムーズに研修を開催することができた。結果、目標を大きく上回る職員が参加し、1 か所あたりで 7.6 人の参加を得た。

成果 3. 地域住民が小児外科に関する正しい情報に接し、適時に医療機関を受診する

3-1 入院患者が情報を受け取る機会〔確認方法：実績調査〕

クラチェ州病院外科で行われる患者教育に参加した小児外科入院患者およびその付添家族の人数

ベースライン（2018） 75 人（25 人/回×年 3 回）

1 年次実績 年間 342 人

2 年次目標 年間 418 人

2 年次実績 年間 921 人 **【達成】**

（うち N 連：330 名、自己資金 591 名）

	<p>2 年次からは、外科職員から新型コロナウイルスの感染予防方法について患者教育の回数を増やしたいという声があがり、積極的に実施した。</p> <p>3-2 コミュニティへの情報提供〔確認方法：実績調査〕 <指標>番組放送の視聴人数〔確認方法〕ラジオ局ウェブサイト上のライブ配信映像への平均アクセス数) ベースライン（2019 年） 818 人（1 回実施） 2 年次終了時点 1,200 人（1 回実施）【達成】</p> <p>ラジオ番組による情報提供は、生放送中の視聴者の反応が大変良く、アクセス数が短日間で指標値を超えた。3 年次は、クラチェ州病院のサービスや手術の重要性について視聴者目線からみたよりわかりやすいコンテンツに改善していきたい。</p>
(4) 持続発展性	<ul style="list-style-type: none"> - 本事業はカンボジア保健省との合意のもと、クラチェ州保健局および州病院との緊密な連携により実施されている。事業計画の立案から実施、フォローアップまで、保健局と州病院が主導的な役割を担うものとして進めてきた。今期に建設した外科棟の運用、維持管理に関しては、別途文書にて州病院が責任を持つことを明確にして譲渡した。瑕疵担保期間の満了後は、州保健局と州病院が担う旨合意している。 - 新病棟建設中の電気・水道費などの経費は州病院が担った。新病棟は機能的になり病床数も増えたことから、電気・水道費、清掃員等の人件費、医療消耗品などは以前と比べて嵩むがすべて州病院が負担し、感染対策委員会の定期的な評価を行うなど維持管理の体制ができています。 - クラチェ州病院の職員に対する研修は主に国立小児病院の指導・コーチングのもと行っており、保健センターへの研修も州保健局、保健行政区、州病院の職員から成る現地トレーナーたちが実施している。このように現地の医療従事者により研修を行うことで、持続性が確保されると共に、現地カウンターパートたちの連携が強化されることを目指している。

3. その他	
(1) 固定資産譲渡先	供与機材の譲渡時に州病院側との交換文書にて、機材詳細や維持管理担当責任者を明文化し、譲渡後の管理席には州病院が果たすことを確認している。
(2) 特記事項	新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、政府のガイドラインに沿った本事業独自の感染予防ガイドラインを作成し、活動時にはカウンターパートや住民にも周知させ活用した。

完了報告書記載日：2022年03月18日

団体代表者名： 理事長 飯島 延浩

【添付書類】

- ① 日本NGO連携無償資金収支表（様式4-a）
- ② 日本NGO連携無償資金使用明細書（様式4-b）
- ③ 人件費実績表（様式4-c）
- ④ 一般管理費等 支出集計表（様式4-d）
- ⑤ 事業内容、事業の成果に関する写真（様式4-e）
- ⑥ 外部調査報告書

事業完了時の写真
 (クラチェ州における小児外科診療体制強化事業)
 (公益財団法人 国際開発救援財団 (FIDR))



1-1-2 院内研修
 手術部、麻酔器のエラー発生時の処置方法について



1-1-4 州外研修
 若手外科医が骨折の治療法について受講



1-2-2 退院後患者のフォローアップ
 外科看護師長が患者の自宅を訪問



1-2-3 患者満足度調査
 外科入院患者の保護者にインタビュー



1-2-5 プロジェクト運営委員会による指導・モニタリング：搬送体制部会



1-3-2 外科棟の移転建設
 着工式 クラチェ州知事、州保健局、州病院、FIDR

事業完了時の写真
 (クラチェ州における小児外科診療体制強化事業)
 (公益財団法人 国際開発救援財団 (FIDR))



1-3-2 外科棟の移転建設
 施工管理委員会 (左から、施工会社、FIDR 佐伯所長、州保健局長)



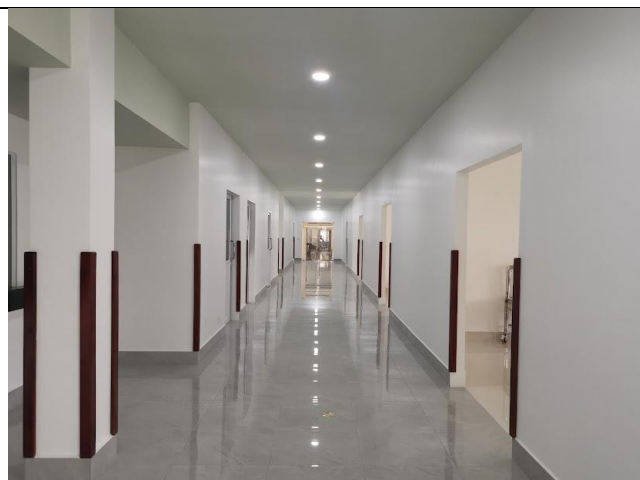
1-3-2 外科棟の移転建設
 1階と2階を結ぶ柱建設の様子



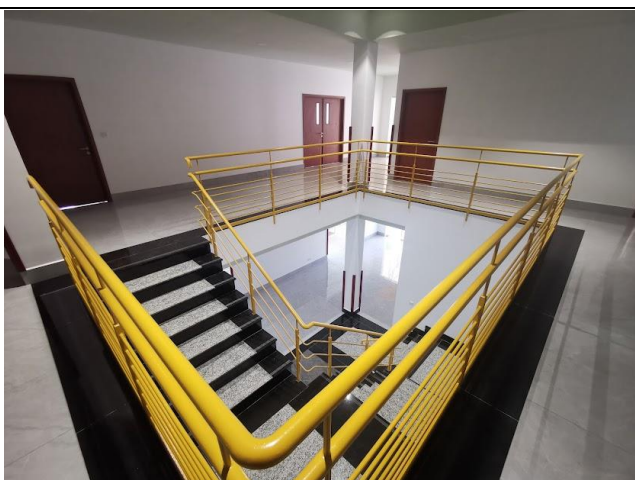
1-3-2 外科棟の移転建設
 完成後の外景



1-3-2 外科棟の移転建設
 州保健局、州病院の関係者らと竣工検査



1-3-2 外科棟の移転建設
 完成後の内装



1-3-2 外科棟の移転建設
 完成後の内装

事業完了時の写真
 (クラチェ州における小児外科診療体制強化事業)
 (公益財団法人 国際開発救援財団 (FIDR))



2-2-1 保健センターにおける小児外科研修
 州保健局副院長兼手術部長（外科医）による講義



3-1-1 患者・家族への保健教育
 手洗い実践をする患者



3-2-1 住民への普及・啓発
 事業現場担当アリウン、州病院手術部部長（当時）、現地スタッフロタナッ